

無党派  
村松恵美子議員



問

待機児童解消の対策について問う。

保育士を確保しやすくするため、平成30年度中に奨学金制度を創設する。

答

子どもが入れる保育所がなく、親は仕事に復帰できない、待機児童が社会問題になっている。相馬市の現状を調べたら保育園に入っている子どもが3才になると保育園にも幼稚園にも入れない待機児童がいることが解

名 1歳児が3名、2歳児が1名、3歳児は2名、4歳児1名で合計40名となっており、特にゼロ歳児の待機児童が多い状況である。

制度を平成30年度中に創設する考えである。

施設・人員不足を理由に3才児が保育園にも幼稚園にも入れない状態を放置することは許されない。

国は、待機児童解消の有効策の一つとして、利用定員の100%まで入所を認めているものの、市内5カ所の保育所でこれ以上の入所者を受け入れるためには、保育士をさらに雇用する必要がある。

平成29年度の受け入れ体制は、保育所数5カ所、保育士数103名で、ゼロ歳児から2歳児までを374名、3歳児から5歳児までを163名、合計537名の児童を受け入れている。

問 待機児童解消の対策について問う。

答 本市の待機児童は、3月1日時点でゼロ歳児が33

問 不足しているのであれば、充足させる施策をどう進めるのかを問う。

答 保育士を確保しやすくするため、保育士を目指す学生に対する奨学金



大野小学校6年生のみなさん

### 相馬市議会を見学

平成30年1月16日、大野小学校6年生のみなさんが相馬市議会を訪れ、市の出前講座を利用して、議会のしくみを学びました。

議場の見学の後、議会運営委員会委員との懇談が設けられ、参加した委員は現在市が抱える問題など児童からの率直な疑問に真剣に答えました。



議会施設を真剣に見学する生徒のみなさん



議員へ一生懸命に質問する生徒のみなさん

豊頃町議会が相馬市を訪問

### 豊頃町議会行政視察

平成30年4月17日と18日の2日間にかけて、相馬市と姉妹都市である北海道豊頃町議会が行政視察のため、相馬市を訪れました。

藤田博規議長をはじめとすると豊頃町議会議員のみなさまは、相馬市における東日本大震災からの

復興状況の視察や風評被害払拭への取り組みについてを視察のテーマとして、市庁舎、歴史民俗資料館、伝承鎮魂祈念館、井戸端長屋、防災備蓄倉庫など、震災後に完成した市内の各施設を視察されました。



担当職員の説明に、熱心に耳を傾ける豊頃町議会議員のみなさま（防災備蓄倉庫）